

1月31日に盛会裏に終了いたしました。多数の方のご参加、ありがとうございました。

第56回センサ&アクチュエータ技術シンポジウム 「人工知能とセンサ応用（第3回）・・・社会インフラ分野」

人工知能（AI）技術は急激に発展し、どこでも AI 時代を迎えたと思われ、産業社会、社会インフラにも大きな影響を及ぼしはじめています。しかしながらセンサ応用に関しては、実用化に当たって諸処の課題が残っているとともに、様々な実例の実態を知ることが急務となっております。

当協議会では、文化勲章を受賞された東京大学名誉教授の甘利俊一先生に特別講演いただき、2018年1月に「人工知能とセンサ応用（第1回）」シンポジウムを開催しました。また、第2回シンポジウム（2019年1月）では、第一線でご活躍されているアカデミア研究者の方々に、人工知能のセンサ応用に関してさらに踏み込んだ研究成果や課題をご講演いただきました。その後も、センサ総合シンポジウム、独自のディープラーニング実習セミナーを開催し、センサ応用に関する AI 技術の啓蒙と普及に努めてまいりました。

この度、第3回シンポジウムでは、社会インフラでの AI 応用に関して、橋梁道路・インフラ点検・河川洪水予測など、実用化を目指す第一線の研究者の方々にご講演いただきます。

多くの会員にとって有益なものであると期待されます。昨年同様、沢山の参加をお待ち申し上げます。

プログラム

13:00～13:30	解説 人工知能開発動向とセンサ応用の課題 人工知能ブームと言われる時代ですが、センサ応用には特有の課題があります。過去 2 回のシンポジウムを振り返りながら、その課題を解説します。その中で今回の講演についても触れ、本シンポジウムの位置付けを行います。 （一社）次世代センサ協議会理事（元東芝技監） 前田賢一氏
13:30～14:30	講演 説明可能な AI による「信頼できる診断と予測」の実現 ディープラーニングにより AI の可能性は飛躍的に高まったが、判断プロセスがブラックボックス化するため、適用範囲が限定的であった。本講演では、このような課題を解決するための「説明可能な AI」について説明するとともに、機械設備や社会インフラなどを対象とした「信頼できる診断と予測」への適用事例について紹介する。 （株）富士通研究所 デジタル革新コア・ユニット プリンシパルエキスパート 渡部勇氏
14:30～14:45	休憩
14:45～15:45	講演 インフラ施工・点検における知能化のためのセンシング技術 本講演では、社会インフラのための現場における知能化技術を紹介する。具体的には、造材や災害対応現場における建機の知能化技術およびインフラ点検における機械学習を用いた打音検査の自動化技術などについて、講演者の研究活動における事例を交えて解説する。 千葉工業大学 先進工学部 未来ロボティクス学科 准教授 藤井浩光氏
15:45～16:45	講演 先端技術の防災分野への活用について 近年我が国では災害が多発しており、防災の重要性がますます高まっている。本講演では九州地方整備局で研究開発を行っている、先端技術（AI・VR 等）を活用した洪水予測や災害情報の共有等について紹介する。 国土交通省 九州地方整備局災害対策マネジメント室 課長補佐 房前和朋氏
16:45～17:00	名刺交換、意見交換

※本セッションは土木学会認定 CPD プログラムに登録されています。（3.5 単位）

日時：2020年1月31日（金） 13:00～17:00

場所：化学会館 5 階 501 号室（東京都千代田区神田駿河台 1-5）

主催：一般社団法人次世代センサ協議会

協賛：一般社団法人電気学会、公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人日本電気計測器工業会、センシング技術応用研究会、一般財団法人マイクロマシンセンター、一般社団法人日本計量機器工業連合会、特定非営利活動法人安全工学会、MEMS パークコンソーシアム、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム、フジサンケイ ビジネスアイ

参加費：次世代センサ協議会会員 11,000 円、協賛団体会員 13,000 円、一般 20,000 円、学生 3,500 円

（テキスト代、消費税込）

■事務局：一般社団法人次世代センサ協議会 Tel.03-5294-2333 E-mail : office@jisedaisensor.org